仕形落語工風智恵輪　全

208
85
帝國圖書館藏

国立国会図書館　工風智恵輪 208-85

ガラス使用

国立国会図書館　工風智恵輪 208-85

ガラス使用

仕形落語工風智恵輪序

国立国会図書館　工風智恵輪 208-85

ガラス使用

たとゝう。おとめはうのをゝうへ〜もゝさゝあくゝちぎゝら
ぎれとやゝうゝのたゝのをゝやあゝべ。むぐゝすぐゝし
ゝのすゝえをゝまぐゝがきうゝろゝぬいさを〜ゝあるぐゝ。
おきゝあぐゝきのおゝ〜とゝうべたけのゝ〜あゝへいゝをゝ。
たぐゝろむゝをゝのゝようゝをゝくゝうゝ彩のゝてゝみゝぶゝきゝかゝき
いゝろゝふゝぬゝく〜ゝをゝれ〜ゝあゝのゝをゝけゝあゝいゝまゝぐ
うゝぐゝるゝたゝひゝあゝんゝがゝさゝちゝみゝかゝんゝせゝんゝだゝうゝのゝあゝるゝぐゝるゝあゝるゝて。
さゝうゝちゝゝよゝいゝのゝちゝあゝぐゝゝをゝとゝゝ彩ゝみゝ。ゝうゝのゝまゝうゝぐゝゝあゝ彩

よゝうゝのゝをゝ〜。むゝづゝきゝのゝうゝうゝのゝとゝ。ゝうゝのゝとゝ〜ゝの。
ゝをゝもゝおゝくゝをゝぐゝめゝよゝ。

東西南北人ゝ有ゝ

風流〜の角のよゝをけゝ〜映風の
ゝうゝらゝえゝかゝひゝをゝい吹出〜法〜

国立国会図書館　工風智恵輪 208-85

ガラス使用

国立国会図書館　工風智恵輪 208-85

ガラス使用

仕形落語目録並道具建

○萬歳の頓智

○文屋康秀の古戈

道具立のこゝぞ前を用ゆる

○四季の詭望

道具立のこゝぞ前を用ゆる俱

一ツ添る

○猟人の難義

ろろ

○太神樂の災難

道具立のこゝぞ前を用ゆる

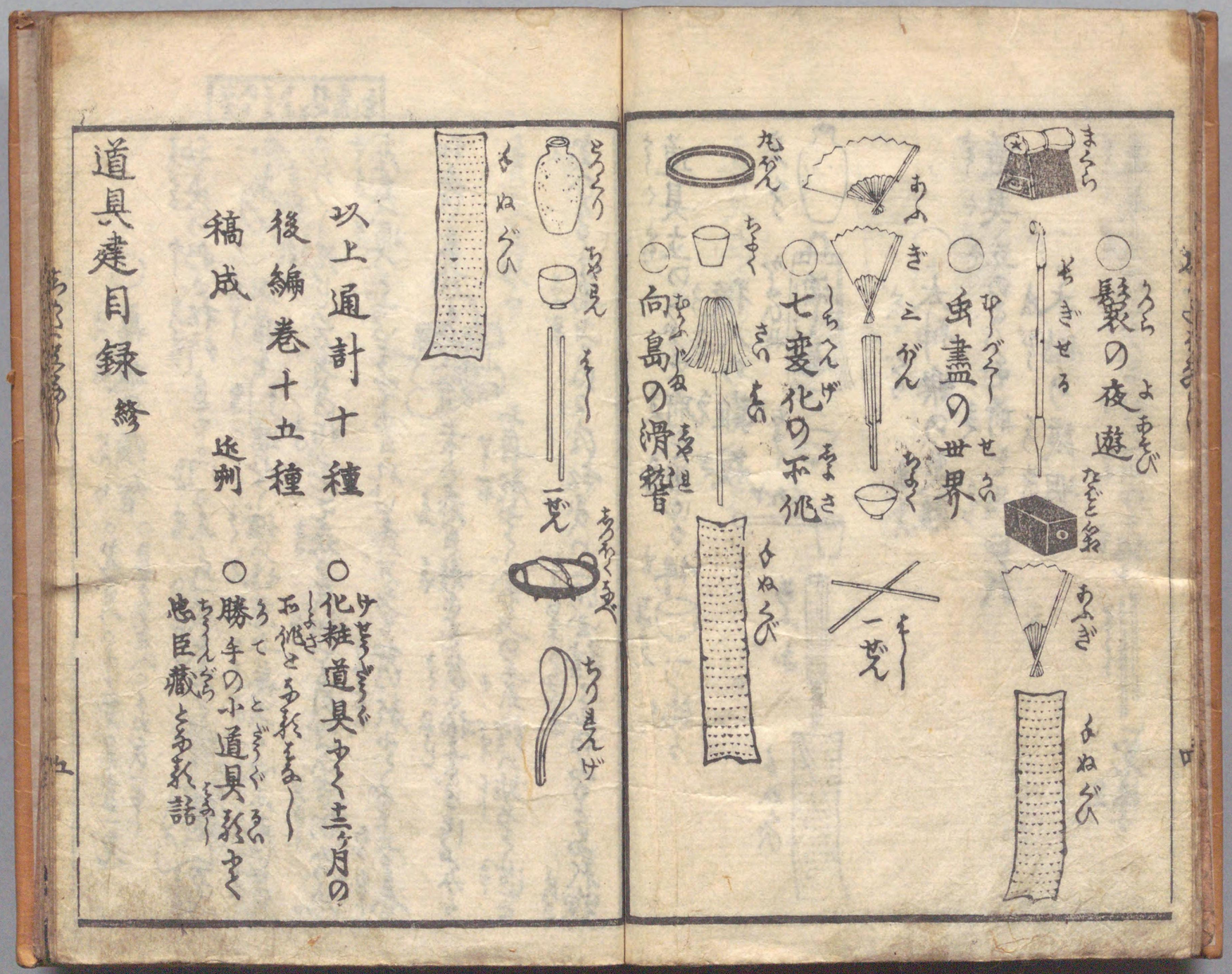
○大鴉の發明

道具立のこゝぞ前を用ゆる俱

一ぢん添る

国立国会図書館　工風智恵輪 208-85

ガラス使用



○髪の夜遊

○虫盡の世界

○七変化の不仕

○向島の滑稽

以上通計十種

後編巻十五種

稿成

近刻

○化粧道具中く三ヶ月の

○勝手の小道具新中く

忠臣蔵と新話

道具建目録終

国立国会図書館　工風智恵輪 208-85

ガラス使用

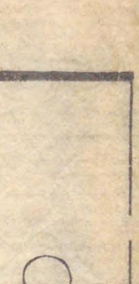
国立国会図書館　工風智恵輪 208-85

ガラス使用

○萬歳の頓智

○きもるたなどへ。ゆぬぐの一もど

初夷の朝さ。松竹とともに門さ立ち。歳を祝ぐ萬歳



が来たを。連れて。徳の塩恵五萬歳と。宝の山を。

コレハ〳〵。珍しい。萬歳の拍子。何ども同じ。吉相なるん。

殿様。通つて。一つ。ひとつ。ものされ。ものされ。萬歳。

初夷のとものれば。教ゆ。ぐつと上る。

上下で。寿き。鶴と。亀。拍子。ぶるぶるみが

ちきゆ。ぐ。ぶる。

真新ゆ。第一の素敵。姫ゆ。ぐ。

ひろ。ひろ。萬歳。ぐ。松竹。三河の玉。猪。ぶ。山の。ぶ。と。ぶ。獅

子。ぶ。ぶ。ぶ

婆婆へ興飯せちうるぐ〜とあり。五道の
冥官ホ
冥〜くるに。其りの寅早體を燒
れば。穢生まぐきからぐこと
ゑ〜といふよ。大豆然ぐ円日あるべ。刑很よ死せる者の死體く
魄灵を。飯まべ〜とあり。少是を驚穿ゑ。其日を刑よ
九州日向の國の。鳩のものゝ。
いつりの
死せるよ〜ゆく。渠が死體へ康秀を興飯せるあるる所よ
吉が
女ぐ〜いまよ。別ま〜悲〜きよ。日〜墓くまり水を
向てあるるが。城の中ゆくあるよ。驚死まぐさよ

墓を埋〜くえれば。夫の穢生せ〜ふ嬉〜く。砂ぐるりかぎり
ゆ〜。されども吉い忙然とし。御う怪ぶ色ゆく。吾いそ〜ゆの
夫よゆぐ。ちが共所い何国ぞといふて。只管伊勢国のゆ〜さ
我妻のるゆど。泣れども女ぐ〜い。一四よ合点せぞ。日向国のと我
家のるゆ。まさ死穢の為解ゆど紛るよ。吉い更よ得心せぞ只
伊勢國のるゆのゆ。ひるる侵是よりしく。そ国のよ紫ふ合ぎる沢
の知まぎることを。伊勢と日向の物語といの別せる。彩く吉い女
ぐうを連てるぐ〜と日向のゆ。伊勢の更ゆり我い

文屋康秀ありとて。妻よ對面するよ

ほるゝ

夫の容色容形の換まるよ。実とも思いざりしが。若くいひ
遣せるのともやさたゝ多める。和歌の反ゞ物語るよつけく
妻も漸〳〵。康秀が立稜生多〳〵たるを知りて。夫婦のちぎり
浅らざりしとかや。日向国の女ぞうも。わさ捨かくて。異妻と
多〳〵。作劣国よ住るゞ。素より者るのり〳〵吉ゞ解多まで。
元よ角むつふ

弥者〻日和下結ゞ。今から
然り二の徒を。ふりまち〳〵

夫獣子集子後ゞと思やアゞる

文屋康秀さゝといふ歌徐ゞ。三稱五重蹴鞠を。喰
飛ゞ多ゞやア行く見ト。太平楽をいふ西。日向の国の友達
糸宮と〻〻通り かゝり夫躰を見て。コレ吉やとめくる
興飯さといふ場を。ゆゞ爰よ居ゝ事ゞ。亮太平ゞ止行く
あトいゞ。おきやアゞ昔の吉とおゝふ。今い文屋の康秀と
いふ歌人ゞ。コイツア大多ひゞ。歌人い居ゝ糞を知ると
いふ。コレ獣子人。吹かゝよ狀の美味のあるれゞ。むゞ山
風をあら〻といふらん。いふ歌いあまゞ徐ゞのゞ人。コレ吉や

国立国会図書館　工風智恵輪 208-85

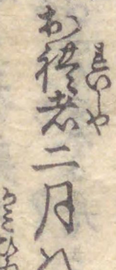
ガラス使用

あんやう人の名を衒ふ。左手をいやんぬ。むろふの自分表よ。
百人一首が出て居さう事。

○四季の詞

仰ぐ豆まくを用ゆる
ちやうにつそる

きづ正月は



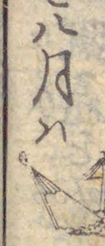
ろう手の

のぢり二月は

お彼岸三月は

釈迦の誕生み月は

紙雛四月は



涼み舟七月は

且形さる有難どぶりまく余り踊出るほど笑宝へ
落まく〜さま平出えわさうませとあくく出て行よ真さと悔悟
果コレヤイ昔ハ節季ハが室へ落ると萬事よめさなく〜も
あるよく〜気のきう移く節季ひざ大ぐらぶうめと呵ま
付られく節季ひも笑ぬ気よあり編笠をそて
ハイ其弦の鎬太郎

○猟人の難義

○ほのぶちすく〜○かあ烏一羽
○あふぎ一ちん○ちなぐ一ちん

猟人ある山よりよ死得りめせんと行さ所よたふ
閑さきゝの如き色ある一羽居るとこんくさるとく弦炮へ玉を
こめ念をふくちとりく傷をうがば笑山鶏生
捕れ形。といふ石ぶまり猟人とをんるより心驚ば若殺る
人もあらば一ちるゝと急ぎ立帰らんとす終後より猟人
動くるとさく〜と声ひられて猟人も一ト ちぐとあり素より
不安内あく係る御山とも存ぜを逆へ〜若ひ何年いのちを
山助けと俺れどもとりの若い義和ぜを縄ひくうんとる

国立国会図書館　工風智恵輪 208-85

ガラス使用

猟師の衣を柄香炉を持て僧一人忽然と来り
題目ぜんぎの〜我入て奥山を巡る行者ありその猟人とも
道具を拾ひ奥山へ入来れども殺生をせざれば〜
〜とあれどもその老僧の言葉を聞猟人を導く
立去る備猟人危き命を拾ひ〜も偏に御僧の恵なり
とくかの僧を伴引連れ向ふる酒屋へ立寄
酒を呑せ肴も呑く大生酔とあり立出る酒屋の
亭主酒の代を貰ふんといふに吾が素より猟人あれば酒代も

かゝるどあるといふ然るに僧はあらひをといえば偽もなくひを
〜〜と経ても続く〜と取ても消ぬ扶助しゆく
亭主ハテ合点ぬ表人の奴なる猟を呑く甚代をかゝるど
あるど不敬の扶助連の僧但も弥猟よりあるゆよりハ
出来ぬと口功者な云ひ〜でんぐり返人の人数ハんせひもあき者
賣ぞ亭主ハ〜ト呆れとそぶらまあ

カタリ〜〜

○大神樂の災難。だぐ立まへを用ゆる

国立国会図書館　工風智恵輪 208-85

ガラス使用

或御屋敷の御物見ゆく左衛門の九一竜まつの木をの

見物の

女中をいかどまりよりの男を見んと

としのあひだから取ひてゐる其中より一人の際の立く美き

女中より九一も見物く竜竜まつのひだ外を禁質が見なまく

歯く帰るより盲人とあらられば御屋敷をも氣の毒よおぢ

めきられ出べを伝ひられく住くの偽物ものもうを立つらるべしと

有がる見上意より名もその侍より九郎とよび

御屋敷へ上るより素ようり俄盲人の麻の為さる御用く外

車留といふ

立れより突当りヤイ何奴ぞコレ

気を付て往来を盲人より突当るといあれ不拵な奴ぞと引

捕まえられば車留の札ゆくよりほしい往来のまんなかたらく

わぎと片隅へ寄く立てわるべらぬぐうげであれ

みやアこんな

痛を覚へとこらへきさアいさい〳〵と

いひあぶら引ひきしよ

とろくの上へ踏うけくのけさなよ上アを

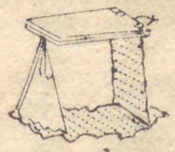
博びヤアだれら投あつくるヤア縄の骨がぬけく立とうあ奴

何でもコリヤア只おやア滑稽でヤイ黒へうもやアぶれとワめき

国立国会図書館　工風智恵輪 208-85

ガラス使用

立てもくいの長さ腰をさもうく立つと思つても痛んでたつとゝまるくまで困ヲ切て居るを賀る竜舟ごん狂言さん



かごをもらうていえづれ船イヤりふかごまうりどうんざ

○大鵬の發明

小海ヨ鯤といふ奥あり化して

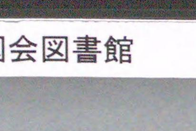
大鵬とある

庄内ゲ子里ゞ一とび飛と知ハ一万里ゆとゝいふあるゑ

契大鵬ハ六百萬里の道を飛で南海ヨ入りゝ新ゞ

翼羽のかゝ身ヨ臥るゆく暫し羽を休めんと海上を見渡せば最平〳〵なる一ツの島あり〳〵よ飛そびさろそく

髪ヨ下て二千里余りの羽をひろげ快然休息居ゝ新所ヨ契〳〵函俄ヨ鳴動して湖ヨあさゞひ浮び上り海中ヨ聲あり〳〵某ゞ脊中へ乗〳〵ハ注ぞといふヨ大鵬ゝ大きヨ驚き飛上り〳〵



ときを見れば海ヨ六百里もあふんと見え〳〵紀解虫ヨてあり〳〵れば差ゞの大鵬も肝を消〳〵起〳〵て天地の間ヨ我ようあるきある

国立国会図書館　工風智恵輪 208-85

ガラス使用

形容のりのハあるまじと思ひの外偖あらしき光景やと
目を縮めて小海の古巣へ立ちかへりてふかの
大鵬の怖れ去りをとんで吾容の廣大なるを
或日南海の水底をたゞれて東海へあそび行ん
七八百萬里の名を横遠くたきを足も労きれで
もとゝ休まんと海中へ浮まる大木の上へ這のり甲羅
を就て暫く息を突居る所へ大木あやうく動ぎ
出して あなたゞ髭く歩まゝ何奴といふ声へ蟹まゝ心驚

蟹い

あゝて足を縮め泡を吐おそれ戦慄南海へ逃さうとする
偖は大木と思ひ東海を住居とせ
ゆてそあらうる蟹の怨を去りをとゝ
廣くといえども中く我へ勝まる形のりの亦あるまじと
東海の底深く行へ遥向へ金殿銀閣
ありこハ形き都へ入りしとかの楼門へ
かゞやく内へ入れば八大龍王の姫を
あるまゝ極先へ鞠つきく唄うこもありいきなれい紙

海老

元天地

の楼門

梗を

国立国会図書館　工風智恵輪 208-85
ガラス使用

宮城の山月あらわとなきよ心を慰めてとある酒店へ立より
屠蘇のち盃傾むけく抑きごやうの胡ナびごーよ生酔と
あり真赤あつて拾歩行ゞ思ひづまをまんりの道よ草卧く
チト豆を体めんと大岩の上ふ迄出り腰をのぶーて居たるよ赤
声あつく有ゞあるへ跨アーハ何奴といふよ海老も暫ーゝ
驚きーゞ髭を撫でおそるく我形よ勝まるりの天化のるふ
あれそゞるふ斯いふい雑ものやあるぞあのれ〳〵ト声
かゝれば下から鏡餅ごろ〳〵

十四

◯襲の夜遊

市川團十良矢の根五郎の時用ひ〳〵

繋ぎあるとゝ紀を立てあり〳〵ふと
ちきる 彼を立その行徐を傍くつれがかの柳ごーうら
あよ乗ゝ紀もあり〳〵馬乗通りをかゞ
あて乗ゝる時もりきてり〳〵乗き狂状

うま首
吸つけ
なぞとを吹樂〳〵の郭通ひもぞらー紀と

国立国会図書館　工風智恵輪 208-85
ガラス使用

あるいはかろうを働ちろく呼ぐだくく美人を加へくれば

盤も面目を失ひや張もあき仕合あり

さるあぐら私子の花街がよひ一文も入ませぬといふ

團十良嘲哢ひ合羽を持ぶ〜そどのつと切くを買といくば

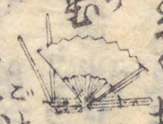
ハイとこ〜ハかこで斗きつりまする

○虫盡の世界○あふぎ二ぢん○ちろく一ぢん

○虫盡の世界○ぜん

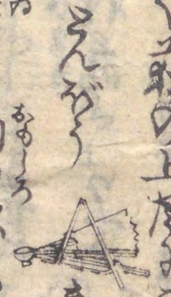
心あき身みも知る〜妹の夕暮草葉よもぎくひの高く

何とまつ〜ね哀よひや



と牧

つく秋の上風よとぐ〜雪を食



そんぐ〜

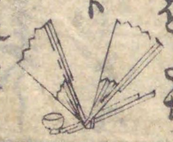
きりぐを美の

むりろよ五徳とまつてまつ〜居るも面白かふ後べナシト今から

よ〜糸の焼竜を足よ行んとあ連立て美の庵アをとち

出れば坐僧ふを笠ぬ〜拵をちろ

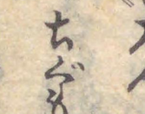
ぜんと



をちあらも一徳よ行て足ん〜トを搖あぐ〜長ん

ほ〜ろひ行ろて

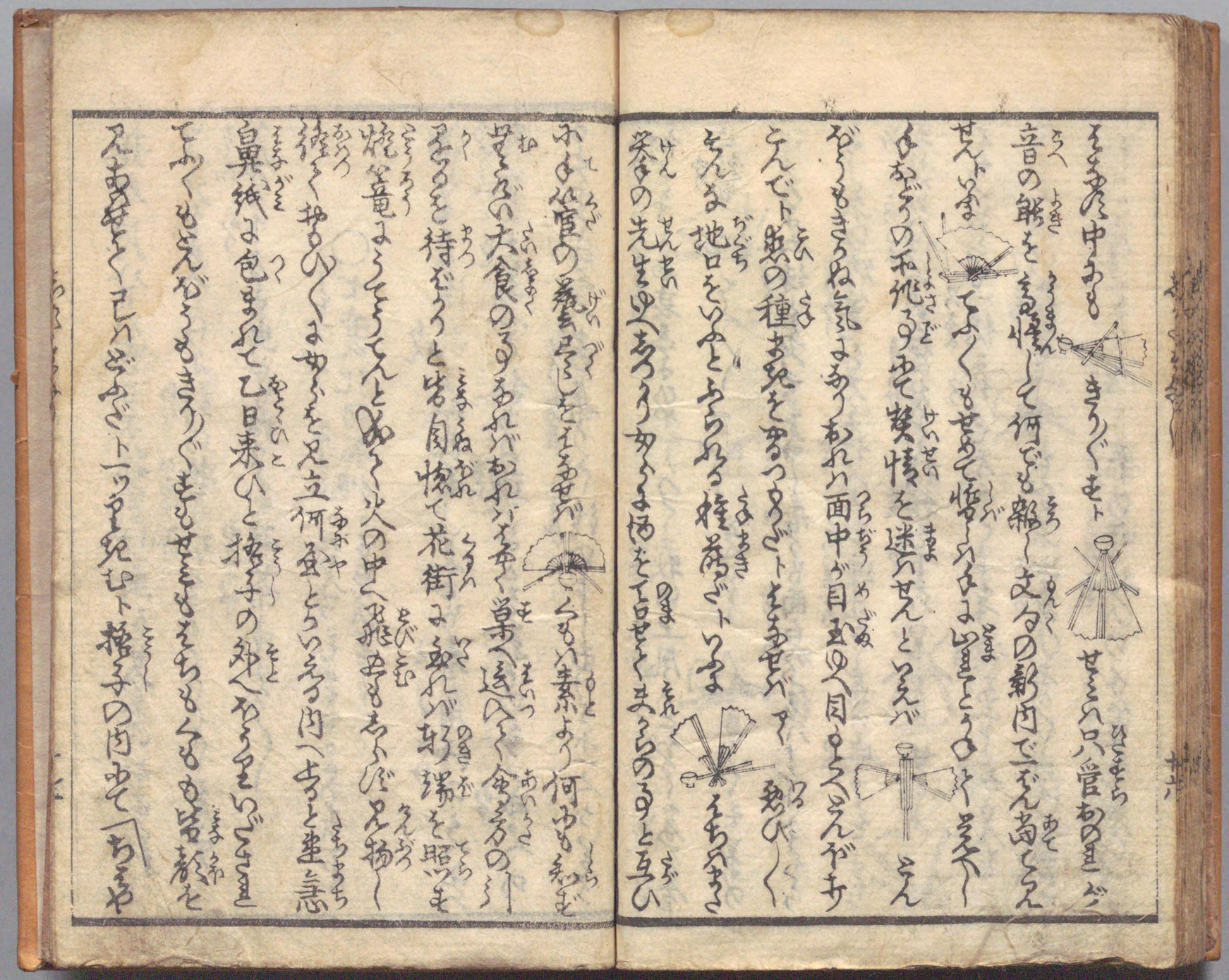
ちぐもわ出ひ玉ひちろぐのよを後て



拙も一座とあり居〜廓の唱拍べの丘管ぐど思ひ〜よ

国立国会図書館　工風智恵輪 208-85

ガラス使用



国立国会図書館　工風智恵輪 208-85

ガラス使用

振舞月八日は吉日よ祝さげ虫を世ぞのぞを新ト
いよ声をきろらけ引の拍子本チョシ〳〵ぞろ〳〵ト
農がやるよ虫ぞもぬぐぞ茸茶よろ〳〵

○七変化の形化。九変一ツ。ちあく一ツ。さいさい一ツ。
ぬぐの一ツ

酒はそろ〳〵乱よおぼぞトいえども表角酒のうくゆ
かゆを老あふく乱ちき機ぎとあ新ちの多り成人の
ちとふく二ツ人寄集りく酒のこ〳〵あげくふ一人ぞろ

多数の我七変化の形化をしてそ子せんといあよ〳〵
見ハ面白ろ〳〵そろ形をしゃく〳〵ト子ち一ち東西く
ちづそ〳〵ぞろ〳〵が

雑あぞろ宿入り下馬さ紀
ちんやサアト羽ぶりをあもコレハ寿ぬ〳〵とあ立ればその
後ぐよかり

ざらの御前イヤハヤ寿ぬく
その後ぐ

金ときのさろぐきあ立ちイヤとは寿
ぬく その後ぐ

勢ざあおどろコレも寿ぬ〳〵
その後ぐかりまのとまま

こまちさとろんろや

国立国会図書館　工風智恵輪 208-85
ガラス使用

奇妙くその後ぐあるまじく

かしまあんどうコレも

古くさ奇妙くその後ぐ切狂言の仕様ものみく

狂くの乱れどやコレハ奇代〳〵サアく狂くの

謡曲を唄ふてくれ後ぐ不紙ぐ出来ぬもの謡を

なのむくトいつよ折節芝居より謡曲を知ぬ者ハ

仕形あるふ〳〵あまえ者の中より酒のんぐ狂くよあんまを

下ふと唄ひ出れば狂くあきれもそまいらるひろあんぐ

ヨットこれハきらあいぐ〳〵

十八

○向島の滑稽。○ちやうん。○ちやうあくあぐ。○ちやうまんげ

○よねぐひ

蹲ふ池のあとうよ法く後ん上て眠を居るあく

亀来ふ何ぞ能ふぐもぐぐうまくトいえぐイヤ

近後ん人よい俗ケロもあく偶古道をの市へ出ても多く

踏をくあつて損ぐう弱〳〵者定めて法亀子あぐ人金

あらふるぐであらふイヘサ法あの後ぐ不景気ぐ

いくぐやうぐぐうませんトをはして居るうちまよ多ぐ是ちく

十九

あり て

あそぶと

蝙蝠飛来まつら安初瀬路者と泥亀まひ
川柳点をやらるゝお何ぞ能お侍ふらゝ〜も
宗口寄ゝく貫ひたいィヤふさして身のうへの述懐ぞふ〜サ
アそれハ面白うあいサア〜今から新掛中〜紀の本母寺
と書れる寺へあ〜ゝく和尚の石清つで一杯言ミヤ
あゝいうきゝ見いよゝゝト警泥亀蝙蝠つま立ゝく向
島と出ゝけ道ぢゝ法名家の立られ〜

あひハ

牡蠣の碑

碑の銘
鼓句の碑などを

鰐口をあじて伏拝ミ
宗長ゝが亭へあり酒さゝを拵いぶさをゝ吉ゝあゝゝ屋の
景色をあゝ　ひれゝ春日形の

石燈籠も流へ不
苔むゝ

かきろぐゝ
あゝ見ゝよゝのゝく咲
奇妙〜と大きゝよ寺見てゝく辞よ乗ゝ　さゝとゝろぐゝ
踊ゝ出ゝゝ蝙蝠ゝ扇をひろげゝく高ふ八ゝぎりまゝゝゝ
御免のかゝふりまゝて見より口上ふゝ上ケまゝゝ只今
警ゝが鰐を踏むゝ泥亀ゝあゝゝ米喰ゝぶり首尾

国立国会図書館　工風智恵輪 208-85
ガラス使用

よふね淋まるとれびゃうぶ 袋板入 三冊

[紙入後編]

繪本當世粧 再板 式亭三馬著 歌川豊國画

繪本釜者筵 袋入 東里山人著 歌川豊國画

繪本岩磐石 同 春扇改 東里山人著 勝川春好画

仕形ぶみ〜 後

208
85

文政四辛巳春新繪草紙

立周智恵の輪 袋入 全一冊 東里山人作 勝川春好画

高尾全傳 菊累配羽觴 全六冊 東里山人作 歌川豊國画

女名易右衛門 六冊 東西尊南北作 勝川春好画 目錄〜通張〜出板賣出所乃相賀〜求免御録刷〜程偏奉希上候

雪の暑 六冊 月光亭笑壽作 勝川春好画

をんな苅萱 六冊 東里山人作 勝川春好画 江戸之神明宮 耳泉堂

菩薩池 五冊 元目楚滿人作 歌川豊國画 和泉屋市兵衛板

金昆羅船利生纜 全六冊 曲亭馬琴作 歌川豊國画

六二之文 全六冊 曲亭馬琴作 歌川豊國画

国立国会図書館　工風智恵輪 208-85
ガラス使用

国立国会図書館　工風智恵輪 208-85

ガラス使用

国立国会図書館　工風智恵輪 208-85

ガラス使用